シーズ名	炎症性腸性疾患の病勢把握と治療の最適化についての検討
所属・役職・氏名	総合医学教育学・講師・鎌田 紀子（KAMATA, Noriko）

＜要旨＞

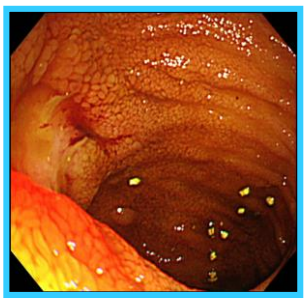
クローン病、潰瘍性大腸炎に代表される炎症性腸疾患（以下、IBD）は、その多くが若年で発症する。腸管に繰り返し炎症を生じ、厚生労働省の特定疾患に指定されているが、患者数は年々増加の一途を辿っている。近年、生物学的製剤の普及により IBD の治療は劇的な変化を遂げた。また、クローン病では成分栄養療法もわが国独自の治療法として確立している。そこで、計画的なモニタリングにて病勢を把握し、臨床的増悪に至る前の段階で治療の最適化を行うことが重要となる。これに加え、治療に対する受容性、社会的背景、性差や食事などについても考慮し、患者の QOL を高めることを目標とする。

＜研究シーズ説明＞

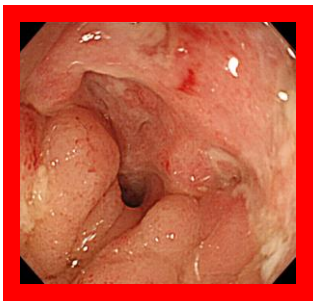
■検討項目

１、内視鏡的評価に基づいた生物学的製剤の有効性や粘膜治癒のもたらす予後の検討
２、生物学的製剤治療の最適化と予後改善の検討
３、生物学的製剤の維持治療における成分栄養療法の併用効果について
４、内視鏡モニタリングによる治療強化の適切なタイミングの評価
５、IBD 治療に対する有効性・QOL に関するアンケート調査

■クローン病の小腸病変（Definition for 2types of active phase）



内視鏡的活動性



臨床的活動性

＜アピールポイント＞

疾患活動性評価は、臨床症状や炎症マーカーだけでなく、病変を最も適切に把握できるモダリティを用いる。また、生物学的製剤の血清トラフ値モニタリングと内視鏡的評価を組み合わせることにより、臨床的に悪化に至る前の段階を把握することができ、臨床症状を中心とした主観的評価のみならず、内視鏡を用いた客観的な評価を行う事で、より早期の治療介入や治療の最適化を行うことが可能となる。

＜利用・用途・応用分野＞

・直腸膣瘻を有する女性クローン病患者の診療
・女性患者への身体的・精神的アプローチについて(月経関連症状、更年期症状を有する患者への対応)

＜知的財産権・論文・学会発表など＞

（論文）Kamata N, et al. Efficacy of concomitant elemental diet therapy in scheduled infliximab therapy in patients with Crohn's disease to prevent loss of response. Dig Dis Sci,2015;60(5):1382-8

（講演）「女医目線での、女性患者との向き合い方」 鎌田紀子. 第 109 回日本消化器病学会　中国支部例会　イブニングセミナー

＜関連するURL＞

https://ocu-gastro.jp/　http://www.med.osaka-cu.ac.jp/ocumsoshin/

＜他分野に求めるニーズ＞ なし	
キーワード	クローン病、潰瘍性大腸炎、内視鏡検査、食事・栄養療法、生物学的製剤治療